



平成24年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年10月28日

上場取引所 東

上場会社名 ホリプロ

コード番号 9667 URL <http://www.horipro.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 堀 義貴

問合せ先責任者 (役職名) 業務本部執行役員

(氏名) 吉田 正通

TEL 03-3490-4601

四半期報告書提出予定日 平成23年11月14日

配当支払開始予定日

平成23年12月2日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年3月期第2四半期の連結業績(平成23年4月1日～平成23年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第2四半期	8,980	△12.7	725	△28.0	797	△27.8	369	△13.7
23年3月期第2四半期	10,283	3.8	1,007	65.7	1,104	52.5	427	49.7

(注) 包括利益 24年3月期第2四半期 292百万円 (△26.2%) 23年3月期第2四半期 396百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年3月期第2四半期	26.05	—
23年3月期第2四半期	30.17	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
24年3月期第2四半期	25,852	19,952	76.4	1,392.40
23年3月期	26,519	20,008	74.7	1,397.21

(参考) 自己資本 24年3月期第2四半期 19,740百万円 23年3月期 19,808百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年3月期	—	7.00	—	24.00	31.00
24年3月期	—	7.00	—	—	—
24年3月期(予想)	—	—	—	12.00	19.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

平成23年3月期期末配当金の内訳 記念配当 6円00銭

3. 平成24年3月期の連結業績予想(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	19,469	△7.2	1,378	△36.6	1,532	△34.5	786	△15.9	55.44

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

4. その他

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	24年3月期2Q	14,182,800 株	23年3月期	14,182,800 株
② 期末自己株式数	24年3月期2Q	5,804 株	23年3月期	5,779 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	24年3月期2Q	14,177,019 株	23年3月期2Q	14,177,164 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料及び添付資料記載の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としております。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報（その他）に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 継続企業の前提に関する注記	10
(5) セグメント情報等	10
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	11
(7) 重要な後発事象	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

<全般の概況>

当第2四半期連結累計期間における日本経済は、東日本大震災からの復興に伴い緩やかな回復基調にありましたが、欧米を中心とした海外経済の減速懸念により円高が進行するなど、先行きに対する不透明感が強まっております。

当業界を取り巻く環境も、企業の広告宣伝費の削減等の影響を受け、厳しい状況が継続いたしました。

このような状況のもと、当社グループは、次世代のスターの発掘・育成を図り、根幹であるタレントマネジメントを軸に、そこから派生するさまざまなビジネスを拡大させ、映像、肖像、音楽などに関わる多くの権利を保有する「コンテンツホルダー」として、人々の心に夢や感動を提供するエンターテインメントの創造に取り組んでまいりました。

この結果、当第2四半期の連結業績は、営業収入89億80百万円（前年同期比12.7%減）、営業利益7億25百万円（同28.0%減）、経常利益7億97百万円（同27.8%減）、四半期純利益3億69百万円（同13.7%減）となりました。

<報告セグメントごとの概況>

各セグメント別の金額はセグメント間の取引を含んでおり、連結合計の金額はそれらを消去した後の数値であります。

① 出演事業

出演事業においては、和田アキ子、片平なぎさ、榊原郁恵、井森美幸、山瀬まみ、宮崎美子、船越英一郎、鶴見辰吾など、存在感のあるベテラン勢が活躍する中、映画「セカンド・バージン」に出演した深田恭子、NHKドラマ10「下流の宴」に出演し、WOWOW連続ドラマ「人間昆虫記」の主役を演じた美波、テレビ朝日「バラ色の聖戦」に出演した芦名星、ブリジストンのCMや日本テレビドラマ「ブルドクター」に出演した石原さとみ、スカパー！のCMや映画「うさぎドロップ」主演の松山ケンイチ、映画「犬のおまわりさん」主演の中尾明慶、ミュージカル「スリル・ミー」にダブルキャストで主演した田代万里生と柿澤勇人、NTTドコモのCMやテレビ朝日「陽はまた昇る」に出演した池松壮亮、舞台「身毒丸」初主演の矢野聖人、NHKBSプレミアム「青い目の少年兵」主演の阿部力、映画「僕たちは世界を変えることが出来ない。But, we wanna build a school in Cambodia.」に主演し、数多くのCMに出演中の向井理など、若手タレントが幅広く活躍しました。

お笑いタレントでは、フジテレビ「笑っていいとも！」などに出演中のさまぁ〜ず、バナナマンなどが数多くのバラエティー番組で活躍しました。

この結果、当事業の営業収入は39億19百万円（前年同期比6.3%増）、営業利益は13億41百万円（同9.9%増）となりました。

② 映像事業

映像事業においては、テレビ番組では、日本テレビ「誰だって波瀾爆笑」、テレビ朝日「クイズプレゼンバラエティーQさま!!」、「お試ししかっ！」などのレギュラー番組に加え、NHK-Eテレ「きょーこ先生の空想保健室」、単発番組では、日本テレビ「リアル×ワールド 143日 テレビディレクターが見た東日本大震災」、TBS「刑事シュート3」、フジテレビ「外科医鳩村周五郎8」、NHK-BS「ニルスのふしぎな旅」などを制作しました。

コマーシャルでは、「永谷園」、「バルコ アヤナチュール」、「マルハン」、「日本ベーリンガーインゲルハイム/ファイザー COPD（慢性閉塞性肺疾患）啓発」、「ロート製薬 防風通聖散錠」、「イー・アクセス イー・モバイル」、「デサント マンシングウェア」など多くの作品を制作しました。

その他、配信分野では、携帯専用放送局BeeTV「教えてバナナマン」、GyaO!やWiiの動画配信コンテンツなどを制作しました。

この結果、当事業の営業収入は14億94百万円（前年同期比39.6%減）、営業利益は62百万円（同62.6%減）となりました。

③ 音楽事業

音楽事業においては、CDアルバムでは、南波志帆初のフルアルバム「水色ジェネレーション」、かりゆし58のデビュー5周年記念ベストアルバム「かりゆし58ベスト」、尺八奏者・藤原道山が参加するクラシカルユニット「KOBUDO -古武道-」が5人のディーヴァとコラボレートした結成5周年アルバム「イツクシミ」、CDシングルでは、大島麻衣「Second Lady」、東南アジア出身のアニソンアイドル4人組ユニット See a ☆ Aのデビューシングル「DREAM SHOOTER」、映画「僕たちは世界を変えることが出来ない。But, we wanna build a school in Cambodia.」の主題歌となったRAM WIRE「歩み」などが発売されました。中でも、板野友美のセカンドシングル「ふいに」はテレビCMに起用され、オリコンウィークリーで初登場1位を獲得するなど注目を集めました。

DVDでは、May'nの2010年夏の全国ライブツアー「Phonic Nation」を追ったドキュメント映画「May'n THE

MOVIE-Phonic Nation-」が3DブルーレイとDVDで発売されました。

この結果、当事業の営業収入は7億73百万円（前年同期比18.5%減）、営業利益は1億29百万円（同50.5%減）となりました。

④ 公演事業

公演事業においては、舞台公演では、1981年の初演以来、世代を越え愛され続けるブロードウェイミュージカル「ピーターパン」、成宮寛貴、鹿賀丈史豪華競演による秀作「太陽に灼かれて」、2008年の初演以来、毎年チケットが完売する驚異の観客参加型ライブエンターテインメント「ドラムストラック」、武田真治、藤原竜也に続く「身毒丸オーディション」でグランプリに輝いた矢野聖人の初舞台、蜷川幸雄氏銀河劇場初演出の「身毒丸」、世界で500万人を動員した大ヒットミュージカル「ロミオ&ジュリエット」、韓国で異例の大ヒット、数々のミュージカルスターを輩出した話題作「スリル・ミー」などを開催しました。

コンサート公演では、和田アキ子、榊原郁恵をはじめ、ホリプロ所属アーティストが出演する「あの鐘を鳴らすのはあなた基金Presentsチャリティーコンサート『song for you』」を天王洲銀河劇場にて開し、コンサートの模様を無料で配信しました。

この結果、当事業の営業収入は13億68百万円（前年同期比13.2%減）、営業損失79百万円（前年同期は1億円の営業利益）となりました。

⑤ 小売事業

小売事業においては、ファッション雑貨ショップ「ルートスター」やアクセサリを専門に取り扱う「エクスペリー」にて、トレンドに敏感な女性をターゲットにした商品を、駅ビルを中心に全国で販売しました。

また、ベルギー生まれの世界的なカジュアルバッグブランド「キプリング」の日本総輸入販売元として、全国の主要都市の店舗や百貨店、通信販売などを通じて販売しました。

この結果、当事業の営業収入は14億40百万円（前年同期比6.9%減）、営業利益は16百万円（同52.0%減）となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

<資産、負債及び純資産の概況>

当第2四半期連結会計期間末における資産は258億52百万円（前連結会計年度末比6億66百万円減）となりました。

流動資産は150億31百万円（同6億28百万円減）となりました。この変動の主なものは現金及び預金の減少（6億26百万円）、受取手形及び営業未収入金の減少（6億73百万円）、有価証券の増加（5億3百万円）であります。また固定資産は、有形固定資産の増加（2億11百万円）、投資有価証券の減少（2億80百万円）等により108億21百万円（38百万円減）となりました。

負債は58億99百万円（同6億11百万円減）となりました。流動負債は支払手形及び営業未払金の減少（同2億41百万円）、未払法人税等の減少（同2億72百万円）等により51億96百万円（同5億73百万円減）となり、固定負債は7億3百万円（同37百万円減）となりました。

純資産は四半期純利益の計上（3億69百万円）、剰余金の配当（3億40百万円）等により199億52百万円（同55百万円減）となりました。

これらの結果、当第2四半期連結会計期間末の自己資本比率は76.4%（同1.7%上昇）となり、1株当たり純資産額は1,392円40銭（同4円81銭減少）となりました。

<キャッシュ・フローの概況>

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は前連結会計年度末と比較して14億26百万円減少し、87億13百万円となりました。

営業活動により得られた資金は4億85百万円（前年同期比4億49百万円増）となりました。資金の増加要因の主なものは税金等調整前四半期純利益の計上（7億44百万円）、売上債権の減少（6億72百万円）であり、資金の減少要因の主のものは法人税等の支払（6億71百万円）、仕入債務の減少（2億38百万円）であります。

投資活動により使用した資金は有価証券の取得（15億3百万円）等により15億56百万円（同18億28百万円増）となりました。

財務活動により使用した資金は主として配当金の支払により3億51百万円（同73百万円増）となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

連結業績予想につきましては、平成23年5月13日の決算短信で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報（その他）に関する事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
該当事項はありません。
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用
該当事項はありません。
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,639	6,013
受取手形及び営業未収入金	2,897	2,224
有価証券	4,199	4,702
商品	642	583
仕掛制作費	265	479
その他	1,086	1,095
貸倒引当金	△71	△67
流動資産合計	15,659	15,031
固定資産		
有形固定資産	2,527	2,739
無形固定資産	341	360
投資その他の資産		
投資有価証券	4,967	4,686
その他	3,163	3,180
貸倒引当金	△140	△145
投資その他の資産合計	7,990	7,721
固定資産合計	10,859	10,821
資産合計	26,519	25,852
負債の部		
流動負債		
支払手形及び営業未払金	1,692	1,451
短期借入金	1,350	1,350
未払法人税等	708	435
賞与引当金	155	240
役員賞与引当金	99	36
資産除去債務	0	—
その他	1,763	1,681
流動負債合計	5,770	5,196
固定負債		
退職給付引当金	101	107
役員退職慰労引当金	325	345
資産除去債務	96	94
その他	218	155
固定負債合計	740	703
負債合計	6,511	5,899

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,583	4,583
資本剰余金	4,619	4,619
利益剰余金	11,083	11,112
自己株式	△5	△5
株主資本合計	20,280	20,309
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△92	△189
為替換算調整勘定	△379	△379
その他の包括利益累計額合計	△471	△568
少数株主持分	200	212
純資産合計	20,008	19,952
負債純資産合計	26,519	25,852

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
営業収入	10,283	8,980
営業原価	7,363	6,442
売上総利益	2,920	2,537
販売費及び一般管理費	1,912	1,812
営業利益	1,007	725
営業外収益		
受取利息	45	39
受取配当金	13	16
受取保険料	30	0
その他	28	31
営業外収益合計	118	88
営業外費用		
支払利息	6	4
為替差損	6	3
貸倒引当金繰入額	4	4
その他	4	3
営業外費用合計	21	16
経常利益	1,104	797
特別利益		
店舗開店負担金収入	2	—
特別利益合計	2	—
特別損失		
投資有価証券評価損	399	29
出資金評価損	—	20
その他	121	2
特別損失合計	520	52
税金等調整前四半期純利益	586	744
法人税、住民税及び事業税	129	404
法人税等調整額	8	△49
法人税等	138	354
少数株主損益調整前四半期純利益	448	389
少数株主利益	20	20
四半期純利益	427	369

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	448	389
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△29	△97
為替換算調整勘定	△22	0
その他の包括利益合計	△52	△97
四半期包括利益	396	292
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	375	272
少数株主に係る四半期包括利益	20	20

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	586	744
減価償却費	118	123
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	△320	20
受取利息及び受取配当金	△58	△55
支払利息	6	4
売上債権の増減額 (△は増加)	137	672
たな卸資産の増減額 (△は増加)	122	△154
仕入債務の増減額 (△は減少)	△225	△238
その他	△53	△18
小計	312	1,099
利息及び配当金の受取額	58	59
利息の支払額	△5	△4
法人税等の支払額	△348	△671
法人税等の還付額	19	3
営業活動によるキャッシュ・フロー	36	485
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の払戻による収入	300	—
有価証券の取得による支出	—	△1,503
有価証券の売却及び償還による収入	208	700
有形固定資産の取得による支出	△204	△297
無形固定資産の取得による支出	△8	△49
投資有価証券の取得による支出	△706	△402
投資有価証券の売却及び償還による収入	124	0
保険積立金の解約による収入	597	—
その他	△39	△3
投資活動によるキャッシュ・フロー	271	△1,556
財務活動によるキャッシュ・フロー		
配当金の支払額	△268	△339
その他	△9	△12
財務活動によるキャッシュ・フロー	△277	△351
現金及び現金同等物に係る換算差額	△11	△3
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	17	△1,426
現金及び現金同等物の期首残高	9,500	10,139
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	32	—
現金及び現金同等物の四半期末残高	9,550	8,713

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

(セグメント情報)

I 前第2四半期連結累計期間(自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注)	合計
	出演	映像	音楽	公演	小売	計		
売上高								
外部顧客への売上高	3,418	2,457	944	1,556	1,541	9,918	365	10,283
セグメント間の内部売上 高又は振替高	270	15	3	20	5	316	36	352
計	3,688	2,473	948	1,577	1,546	10,234	402	10,636
セグメント利益又は損失 (△)	1,220	167	260	100	34	1,783	△56	1,726

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、各種スクール運営事業、ファンクラブ運営事業、ライセンス事業、劇場運営事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利 益	金 額
報告セグメント計	1,783
「その他」の区分の損失	△56
セグメント間取引消去	△12
全社費用(注)	△706
四半期連結損益計算書の営業利益	1,007

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(追加情報)

第1四半期連結会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号 平成21年3月27日)及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日)を適用しております。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間（自平成23年4月1日 至平成23年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント						その他 (注)	合計
	出演	映像	音楽	公演	小売	計		
売上高								
外部顧客への売上高	3,659	1,490	773	1,365	1,433	8,721	259	8,980
セグメント間の内部売上 高又は振替高	260	4	—	3	7	275	54	329
計	3,919	1,494	773	1,368	1,440	8,997	313	9,310
セグメント利益又は損失 (△)	1,341	62	129	△79	16	1,469	△86	1,383

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、各種スクール運営事業、ファンクラブ運営事業、ライセンス事業、劇場運営事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の内容（差異調整に関する事項）

（単位：百万円）

利 益	金 額
報告セグメント計	1,469
「その他」の区分の損失	△86
セグメント間取引消去	△2
全社費用（注）	△655
四半期連結損益計算書の営業利益	725

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記
該当事項はありません。

(7) 重要な後発事象
該当事項はありません。